

Newsletter vol. 26

国際交流センターのススメ、国際交流センターへススメ

国際交流センター課長 宮澤 文玄

4月より国際交流センターの課長を務めることになりました。どうぞよろしくお願い致します。さて着任後、まずは本学の国際交流の状況を把握するため他大学との比較分析をしてきました。その結果、本学は留学生の送り出し・受け入れ数とも同規模の大学としては多い方で、また制度上も充実しており他大学の担当者から羨む声を聞いたほどです。それでも、現在の日本を取り巻く環境から制度は整備されていても、なかなか活用されず留学者も減少し内向きの傾向にあるという面は否めません。

一方、これから学生の皆さんが就職活動をする際、日本企業はグローバル化の道に進んでいるという現実があります。外資系はもちろん国内企業でも既に楽天は社内の公用語を英語にして食堂においても徹底しています。ユニクロ、日産等においても似た動きがあり、採用において国籍で区別しない企業も増えています。(もちろん、その是非については議論の余地があります。)

それでも日本で就職をするのだから海外とは関係ない企業に行けばいいと思う学生もいるでしょうが、今や海外と無関係な企業を探す方が難しい時代かもしれません。そのような折、語学ができないから就職の選択肢が減るといっても残念なことではないでしょうか？そう、好むと好まざるとそのような時代になりつつあります。現代のリテラシー能力とは、読み・書き・そろばんの昔と違い、英語に限らず言語運用能力も求められているのです。

現在、本学では様々な機会を利用して多様な言語が学べる場を提供しています。授業はもちろん、各学科での催しや外国語教育研究センター、生涯学習センターも活用してみてください。そして学内だけでなくぜひ海外にも目を向けてください。外国では言語を学ぶこと以外に、皆さんが大きく成長できる機会があります。国外に出ることで、語学は手段であって目的ではないことへの気付きも体感でき、日本を客観的に見るができるようになるでしょう。また、予測できなかった状況に対する問題解決能力等は、国内でネットを通した情報だけでは身に付かないはずです。

私の学生時代は、留学に対して費用的な補助は一切ありませんでした。現在、競合他大学においても一部の褒賞を除いて費用補助をしない大学は少なくありません。ところが本学では今、正規の留学については50万円(20名)の奨学金に加えて、優秀者には奨



▼2009年海外研修先のInternational officeにて



励金の補助もありますので経済的負担はかなり軽減されることでしょう。大学院生の海外学会発表の補助も昔はなかった制度です。

また、長期では難しいが夏期語学研修なら行きたいという声も聞きますので、そうしたニーズに合わせ今夏より10万円を上限として100名に奨学金を給付するという本学独自の制度や、ボランティアに対しての奨励金の対応も開始しましたのでぜひ奮ってご応募ください。(詳細はG-portやHP参照)

なお、本学にも多くの外国人留学生在籍しており、新しい中央棟には留学生と日本人学生が交流できる場を用意しています。留学に興味がある人はもちろん、学内で異文化交流してみたいという皆さんも大歓迎です。ランチタイム交流会や海外経験者による留学クラブ等いろいろな催しも企画していますので、ぜひ国際交流センターに足を運んでください。

大学内で「交流」と名の付く部署は本センターだけです。交流というのは一方通行で与えられるものではなく、相互によってなされるもの。最初は学内が出発点でも、勇気を持って最初の一步を踏み出すことにより新しい世界が開けてくることでしょう。

国際交流センターが、一人でも多くの皆さんとの交流の場となるよう願っております。

法学部教授の水野所長を筆頭に、センターのスタッフは留学経験や語学に精通しており、皆さんの夢を目標に、そして現実にも叶えるお手伝いを致します。留学生の送り出しと受け入れの活性化を国際交流センターのミッションとして掲げ、まずは中央棟2階で多くの皆さんとお会いできることを楽しみにしております。